

「氷川講の勧め方について知る」解答

資料 文化二年（一八〇五）

差上申一札之事（太々神楽講勸方廻村二付）
（西角井家文書一六五八）

差上申一札之事

御当社永代大々神楽講勸方廻村、当丑年
未年迄七ヶ年之間、武蔵一ヶ国之内、私共兩人江
出役被 仰付、給分之儀、雜用共一ヶ月壺人二付
金壺兩ツ、日割勘定を以、被下置候筈、難有
仕合奉存候、然上者、廻村先聊非法之
取計不仕、講錢集次第取立、帳面二
引合、世話人中江相渡し、諸事世話人中与
相談を以相勤可申上旨、被 仰渡奉畏候、
若勤方御氣二入不申候節者、諸帳面
御道具等御取上二相成候共、其節違変
之儀決而申上間敷候、為後日御受一札
仍而如件

出役

御社役人

文化二丑年五月

堀江勝守 印

同断

中田左近 印

証人並木村

武 七 印

角井出雲守様

【読み下し】（本文のみ）

資料 文化二年（一八〇五）

差上申一札之事（太々神楽講勸方廻村二付）
（西角井家文書一六五八）

差し上げ申す一札の事

御当社永代大々神楽講勸方廻村、当丑年より
末年迄七ヶ年の間、武蔵一ヶ国の内、私共兩人へ
出役仰せ付けられ、給分の儀、雑用共一ヶ月壺人に付
金壺兩づつ、日割勘定を以て、下され置候筈、有難き
仕合に存じ奉り候、然る上は、廻村先聊非法の
取計仕らず、講錢集次第取立、帳面に
引合、世話人中へ相渡し、諸事世話人中と
相談を以相勤申し上げべき旨、仰せ渡され畏み奉り候
若し勤方御氣に入申さず候節は、諸帳面
御道具等御差上に相成候共、其節違変
の儀決して申し上げまじく候、後日の為御受一札
仍て件の如し